

3. 学会および 誌上発表抄録

1. 学会発表

(1) 大野市における地下水汚染について

持田壯一、山口慎一、高田敏夫、石田敏一、
青木啓子、宇都宮高栄、内田利勝

第18回環境保全公害防止研究発表会

(1991年、東京都)

大野市におけるテトラクロロエチレンによる地下水汚染を調査し、地下水の流れ解析と汚染範囲の確定、汚染源の特定を行った。地下水は炭酸カルシウム型で、南から北に流れ、地形と良く対応している。テトラクロロエチレンは南から北へブルーム状に拡散し、汚染範囲は0.4km²である。汚染施設は汚染範囲南端から60m南にあるクリーニング取次所で、汚染源は過去に使用していたドライクリーニング機とスラッジ置場であった。

(2) 魚類のへい死対策について

—酸素欠乏状態における

2, 3の生理特性について—

内田利勝、石田敏一、林隆一郎

第7回全国公害研東海・近畿・北陸支部研究会
(1992年、福井市)

都市河川において比較的発生事例が多いといわれている酸素欠乏死について、へい死魚体を取り上げ、魚体中の血液性状(赤血球抵抗力、乳酸量)および肉中の乳酸量を指標として、へい死判定法の有用性について検討を行った。

その結果、酸素欠乏状態に置かれた試験魚は時間の経過とともに、赤血球抵抗力および乳酸量の変化が見られ、特に、死亡前後においては血液中の乳酸量が著しく増加した。このことから、血液中の乳酸量の測定は酸素欠乏死の判定法として有用であることが明らかとなった。

2. 誌上発表

(1) 1987年の夏、秋における三方湖と北潟湖の浮遊性藍藻類

根来健一郎*、青木啓子

(Acta Phytotax. Geobot. 42(2): 165-171(1991))

1987年の8月と10月に三方湖と北潟湖の植物性プランクトンの調査を行った。その結果、三方湖には11種類、北潟湖には7種類の浮遊性藍藻類が認められた。その中で、6種類が日本新種として確認されたが、分類学的に *Romeria elegans*(三方湖)が最も珍しく、注目される。次いで珍しいものは *Oscillatoria pseudominima*(北潟湖)と *Anabaena aphanioides*(三方湖)であった。

* 理学博士 大津市大谷町10-6

3. 所内研究発表会

(1) 第20回環境センター・衛生研究所の合同研究発表会

1. 日 時 平成4年2月4日(火) 9:00~

16:00(午後)

2. 場 所 福井県環境センター会議室

No.	発 表 演 題	発 表 者
1	固体燃料中の硫黄分分析に関する研究	主任研究員 落井 勅
2	酸性雨の土壤に及ぼす影響について	" 前川 勉
3	環境関連情報による地域環境特性の評価について	研究員 八幡 仁志
4	テレメータによる石炭火力発電所の監視	" 山田 克則
5	ゴルフ場の農薬調査結果について	主任研究員 山口 慎一
6	化学物質環境汚染実態調査結果について	" 高田 敏夫
7	流域のモデル化と流域管理	" 宇都宮高栄
8	平成3年度に三方湖に発生したアオコについて	研究員 青木 啓子

資料 目 次

1 大気汚染常時監視調査関係資料

表1.1	大気汚染常時観測局一覧表	126
表1.2	測定項目一覧表	127
表1.3	観測局の設置・移動歴	128
表1.4	二酸化硫黄(SO ₂ :年間値)	129
表1.5	二酸化硫黄(SO ₂ :月間値)	130
表1.6	浮遊粉じん(Dust:年間値)	131
表1.7	浮遊粉じん(Dust:月間値)	131
表1.8	浮遊粒子状物質(SPM:年間値)	131
表1.9	浮遊粒子状物質(SPM:月間値)	132
表1.10	窒素酸化物(NO、NO ₂ :年間値)	133
表1.11	窒素酸化物(NO+NO ₂ :年間値)	134
表1.12	一酸化窒素(NO:月間値)	135
表1.13	二酸化窒素(NO ₂ :月間値)	136
表1.14	窒素酸化物(NO+NO ₂ :月間値)	137
表1.15	二酸化窒素(NO ₂)、日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数 (月間値)	138
表1.16	窒素酸化物(NO+NO ₂)に占める二酸化窒素(NO ₂)の割合 (月間値)	138
表1.17	光化学オキシダント(Ox:年間値)	139
表1.18	光化学オキシダント(Ox)、昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数	139
表1.19	光化学オキシダント(Ox)、昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数	139
表1.20	光化学オキシダント(Ox)、昼間の1時間値の月平均値	140
表1.21	光化学オキシダント(Ox)、昼間の1時間値の月最高値	140
表1.22	光化学オキシダント(Ox)、昼間の日最高1時間値の月平均値	140
表1.23	光化学オキシダント(Ox)濃度0.090ppm以上の出現状況	141
表1.24	非メタン炭化水素(NMHC:年間値)	141
表1.25	メタン(CH ₄ :年間値)、全炭化水素(T-HC:年間値)	141
表1.26	非メタン炭化水素(NMHC、月平均値)	142
表1.27	メタン(CH ₄ 、月平均値)	142
表1.28	全炭化水素(T-HC、月平均値)	142
表1.29	一酸化炭素(CO:年間値)	143
表1.30	一酸化炭素(CO:月間値)	143
表1.31	硫化水素(H ₂ S:年間値)	144
表1.32	硫化水素(H ₂ S:月間値)	144
表1.33	大気環境汚染測定車「みどり号」による調査結果	145

2 大気汚染調査関係資料

表2.1	二酸化鉛法による硫黄酸化物調査結果	148
------	-------------------	-----

表2.2 TGSろ紙法による窒素酸化物(二酸化窒素)調査結果	149
表2.3 降下ばいじん調査結果	150
表2.4~8 酸性雨調査結果	151

3. 水質汚濁調査関係資料

表3.1 公共用海域常時監視調査の概要(調査地点、分析項目、分析数)	162
表3.2~11 公共用海域常時監視調査結果	164
表3.12 三方五湖の動、植物プランクトン調査結果	174
表3.13 北潟湖の動、植物プランクトン調査結果	175
表3.14 工場・事業所排水分析結果	176
表3.15 工場立入補完調査	177

4. 環境センターの主な業務変遷

表4.1~3 環境センターの主な業務の変遷	180
表4.4~10 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.11~14 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.15~18 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.19~22 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.23~26 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.27~30 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.31~34 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.35~38 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.39~42 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.43~46 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.47~50 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.51~54 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.55~58 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.59~62 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.63~66 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.67~70 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.71~74 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.75~78 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.79~82 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.83~86 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.87~90 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.91~94 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.95~98 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181
表4.99~102 環境センターの主な業務の変遷(環境監視課)	181